

沖縄戦新聞

立町更音
中学校栄共
1年A組
味芽岡廣

沖縄戦争とは

沖縄戦はどんな戦争だったのか

一九四一年から始まった太平洋戦争。その末期の一九四五年三月二十六日に沖縄戦が始まりました。南西諸島に上陸したアメリカ軍を主体とする連合軍と日本の間に降伏調印式が行われ、沖縄での戦いが終わりました。沖縄戦は県民を巻き込み、地上で行われた地上戦でした。総務省のサイムによると、沖縄戦では約十八万八千人、日本人が亡くなり、約一十二万二千人の米軍の人が亡くなっています。それ以外の死亡者数も合わせると約二十万人の人が沖縄戦で亡くなっています。砲弾や銃弾で亡くなった人以外にも

沖縄が戦場になつた理由

米軍が沖縄を攻めた目的は大きくわけると、土を攻めるための武器に米軍を沖縄にひきよせ、食料、燃料の補充基地としたり、この大切な物資たちの荷下ろしのため、そのための沖縄戦は地上戦となっていました。この二つの目的がありました。

自決で亡くなった人、餓死や栄養失調、マラリアなどの病気で亡くなった人もたくさんいます。沖縄戦が地上戦だったこともあり、米軍の無差別な攻撃で軍人だけでなく、一般県民の犠牲者が出てしまいました。

事項	戦没者数
全戦没者数	200,656
1.沖縄県出身軍人軍属	28,228
2.他都道府県出身兵	65,908
3.一般県民	94,000
小計(1~3)	188,136
米軍	12,520

「沖縄戦の死亡者数

沖縄戦の歴史がのこる場所

沖縄戦を詳しく知れる場所が沖縄県にたくさんあります。糸満市南部には平和祈念公園があり、そこには沖縄戦の歴史が詳しくわかる平和祈念資料館があったり、沖縄戦で亡くなった全この戦没者の名前が彫られた平和の礎もあります。ひめゆりの塔というひめゆり学徒隊の慰霊塔があり、ひめゆりの塔が再現されている場所があります。他にモーター、詳しく学べる場所もあり、ひめゆりについて周知に散らした遺骨を納めた慰霊塔があったり、戦争中につかわれていたかみが見学できたり、このような場所を見学してみると沖縄戦のことをよく知ることができます。

ひめゆり学徒隊



看護要員として動員された教師、生徒二四〇名の女のたうのことであります。そのうち一三六名が沖縄戦で死亡しました。ひめゆりの生徒は壕の中にある兵隊のための病院、沖縄陸軍病院で患者の世話をし、こまめに尿や便の片付け、水や食事の世話、包帯交換の手伝いなど、壕の外に行く水汲みや死体埋葬の仕事に命懸けで行っていました。

六月十八日夜に学徒隊に解散命令が言渡されました。解散命令後は死者の八十六%である百七十七人が死亡、または行方不明となっていました。

編集後記

沖縄戦のことを調べようと思つたとき、五年の夏休みには平和祈念資料館に行つたことがあります。平和の礎、戦争に関する資料やものもたくさんありました。見ていくうちに、沖縄戦のことを知りたくなりました。なのでこの新聞では沖縄戦のことを調べました。自分でも調べたこと、前よりたくさん知ることができたので楽しく新聞をつくれました。